

科目名	メディア論
科目名(英訳)	Media Theory
科目ナンバー	HI140A02
担当者 (非)は非常勤講師	王 昊凡
単位数	2
開講学年	1年
開講セメスター	春期毎週
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	【春学期】 王 昊凡: 月1-2
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	コミュニケーション学科専門教育科目の中の文化情報デザイン基礎科目のうちの基礎知識科目として位置づけられる。基礎知識科目は、メディア文化情報デザインに関する基礎的理論を身につける科目群である。本講義は、メディア論の基礎的な理論を自分の日常的なメディア利用を通して学び、メディア環境の変化にとまどい、社会状況、また、広くは人類の歴史がどのように影響を受けたのかについて考えるための科目である。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:◎ ②:○ ④:○
身につく基礎力 / 身につく汎用力	課題設定力 クリティカル思考力 / 豊かな教養 専門的知識・技能 国際的な視野

授業の主旨 (概要)	講義では、身近な例としての「食」を題材にしつつ、メディアやコンテンツがどのように社会状況を変えてきたのか、社会状況をどのように反映したのか、その変遷を辿りつつ、注目すべきポイントを解説していきます。前半では人間が作るモノと人間・社会の変化がリンクする事例として、家族や家庭料理、地域や都市に関するものを取り上げます。また、海外における日本文化の消費を題材に、グローバル化のなかのメディアについて議論を行います。後半では、メディア論の理論(基礎的なものを取り上げる)について、身近な事例をあげつつ解説を行う予定です。		
具体的 達成目標	人間が作るモノと人間・社会の変化がリンクしていることについて、具体例をふまえて理解できるようになる。メディア論の理論の基礎的なものを理解し、自らの言葉をもちいてその説明ができるようになる。グローバル化する現代社会において、メディアがもつ可能性と限界について、自らの考えをもつことができるようになる。		
授業計画	1	【内容】	プロローグ: 本講義の目標と位置づけ、同時代のメディア利用概観
		【授業外学習】	親世代とメディアに関する感覚の違いを感じることはありますか? 日々の暮らしを思い返して、文章にまとめてみよう。
	2	【内容】	日本における近代家族の形成とメディア
		【授業外学習】	江戸時代の一般的な農民の夕食について調べ、イメージとどのように違うかを書き出そう。
	3	【内容】	台所からキッチンへ——「よき主婦」のイメージ形成
		【授業外学習】	投稿型・料理動画レシピサイトがどのような変化をもたらしたのか、考えを文章にまとめよう。
	4	【内容】	地域のなかのテレビと電話
		【授業外学習】	どこでもよいので一つ地域をとりあげ、そこにある伝統的な食事について調べてみよう。
	5	【内容】	口承文化と地域社会——ムラの祭りとスシ
		【授業外学習】	ポケモンパンやビックリマンシールなど「オマケ」を目当てに買い物をした経験や、それを避けた経験について文章を書こう。
	6	【内容】	消費社会の時代——記号消費とシミュラクル
		【授業外学習】	1990年代のCMを見て、感想を書こう。
	7	【内容】	レポートというメディア
		【授業外学習】	レポート課題を呈示するので、どのように執筆するかを考えておこう。

	8	【内容】	アカデミックライティングを学ぶ			
		【授業外学習】	レポートの書き方をかんたんに解説したうえで例文を示すので、例文の中にある問題点を指摘しよう。			
	9	【内容】	国外における日本製コンテンツの消費——アメリカと中国を例に			
		【授業外学習】	字幕組の多義性をふまえつつ、問題解決の案を考えよう。			
	10	【内容】	日本国外における日本文化の消費とSNS			
		【授業外学習】	日本国外における日本文化の消費の事例をひとつあげ、簡単に調べてみよう。			
	11	【内容】	メディア論の黎明			
		【授業外学習】	講義で取り上げた時代の背景について調べ、気になったことを文章にまとめよう。			
	12	【内容】	弾丸理論・限定効果理論・議題設定機能			
		【授業外学習】	学んだ概念と関連する受講生自身の経験について、文章にまとめてみよう。			
	13	【内容】	「メディアはメッセージ」とは			
		【授業外学習】	学んだ概念と関連する受講生自身の経験について、文章にまとめてみよう。			
	14	【内容】	カルチュラル・スタディーズの視点			
		【授業外学習】	学んだ概念と関連する受講生自身の経験について、文章にまとめてみよう。			
	15	【内容】	エピローグ：全体のまとめ			
		【授業外学習】	レポート課題をどのように書くか、テーマと概要を書こう。			
授業方法	講義形式をとります。レジュメを配布し、プロジェクターを使用します。 授業では毎回「授業後コメント課題」を課していますが、学生へのフィードバックとして、次の回で冒頭で一部取り上げて紹介することがあります。					
成績の評価方法	毎回のコメントシート(30%)と期末レポート(70%)をもって総合的に判断します。出席の取り扱い等は初回授業でお伝えしますので、必ず確認するようにしてください。					
成績の評価基準	達成目標の90%以上の達成でS評価、80%以上でA評価、70%以上でB評価、60%以上でC評価とします。授業への参加度は単純な出席の有無ではなく、コメントシートや小レポートの提出及びその内容をもって評価します。期末レポートについては①適切な文章の表現と構成、②論理的な破綻がないこと、③説得力のある説明をおこなうこと、④受講生が自らの力で考えた独創的なアイデアであること、を重視して評価します。剽窃をはじめとする不正行為については厳正に取扱います。					
教科書						
参考文献	No	書籍名	著者名	出版社	価格	ISBN/ISSN
	1.	『よくわかるメディア・スタディーズ』	伊藤守	ミネルヴァ書房		
	2.	『ブックガイドシリーズ基本の30冊：メディア論』	難波功士	人文書院		
	3.	『メディア・情報・消費社会』	井上俊・伊藤公雄	世界思想社		